

特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス
2013(平成25)年度事業報告

国際協力事業:アジア事業	2013 年度事業決算	13,457,599 円
--------------	-------------	--------------

●地雷埋設地域村落開発プロジェクト【カンボジア】

今年度はバタンバン州カムリエン郡の3村で、村落開発支援を実施。3村は、いずれも提携する地雷撤去団体 MAG によって地雷撤去が実施され、村人の生活圏内の地雷は撤去されているが、まだ村の中には地雷原が残っている場所も存在している。このプロジェクトでは、村人たちの自治によって村を発展させ、最貧困層、特に厳しい生活環境におかれている地雷被害者やその家族の生活をサポートしている。

～オッチョンボック村～

村落開発支援を始めた 2008 年以來、小規模融資や健康保険の制度を村人たちが運営してきたが、村人たちの話し合いにより、小規模融資や健康保険の制度は、村人たちの生活が向上してきたことから、村人たちの意志により、中止することになった。



オッチョンボック村に住む
地雷被害者のアト・マウさん

～プレア・プット村～

プレア・プット村の住民組織では、村長を中心に小規模融資や健康保険の制度を 2009 年から運営を始めたが、2013 年は制度自体がうまく運営されず、保険制度も資金を回収できていないため、制度運営に関して話し合いをしている。

収入向上支援として、地雷被害者の子どもを含む 6 名の最貧困層の女性に裁縫技術訓練を実施、井戸を 1 基建設。プレア・プット村小学校では、NPO 法人コミュニティ時津様の 10 周年記念イベントを実施し、歌や踊りの交流、文房具、衣類の提供を行った。



自分で製作した伝統衣装を着る受益者たち

～ロカブッス村～

2011 年より小規模融資と健康保険制度の運営をしている。2013 年に発生した洪水の影響で 76%の村人たちの収入に影響を受けた。健康保険制度では、17 名の村人に保険が提供され、制度として機能していると言える。また、収入向上支援として、2013 年 10 月より伝統衣装の製作技術訓練を 7 名の村人たちへ実施、1基の井戸を建設した。基礎教育支援として、村の小学校へセラミック製水濾過器を各教室へ提供した。その他、家庭の経済的な理由で小学校を中退しなければ



ロカブッス村小学校での補習授業の様子

ならなかった子どもたちに、補習授業を放課後に実施する支援を始めている。

●地雷撤去支援プロジェクト【カンボジア】

提携する地雷撤去団体 MAG の機械チーム、掘削機“タント”チームの運営費を提供した。このタントと名付けられた掘削機は、小型で移動しやすく、地雷原での地雷撤去チームの作業をより、効率的に、速くすることが可能となる。2013 年度は、パイリンのサラウ郡とバタンバン州ラタナック・モンドル郡、そしてバヴェル郡の3つの地雷原での地雷撤去活動に使用され、より効率的な地雷撤去活動を展開できるように貢献している。



防護板が取り付けられた“タント”

●地雷埋設地域教育支援プロジェクト【カンボジア】

2011 年に、バタンバン州バヴェル郡のブオ・ソククリアチ村にて建設したブオ・ソククリアチ村小学校建設において、継続して幼稚園クラスの教員 2 名と図書室の司書への給料を提供することで、村の小学校の教育の質の改善を図り、授業の頻度や小学校の環境美化の整備で大幅な成果をあげている。また、2008 年に建設した穂高小学校と2011年に建設したオウ・チェット・プラム村小学校にそれぞれ貯水タンクを建設した。

●不発弾啓発用漫画本の出版【ラオス】

プロの漫画家とラオスのシエンクアン県に現地調査を実施し、日本語でのクラスター爆弾の啓発用の漫画本を、独立行政法人国際協力機構関西国際センター（JICA 関西）の助成金で出版した。初版で印刷した 200 冊の本は、京都市内の図書館やラオスに関係のある機関、関係者、またラオスの出版記念イベントを12月に実施した際に一般の人へも配布した。



ラオスのクラスター爆弾に関する啓発本の表紙

●不発弾撤去支援活動【ラオス】

ラオス、シエンクアン県で活動する不発弾撤去団体 UXO-Lao と提携し、水道建設事業を実施したカム郡パハーン村の水道建設予定地の不発弾撤去費を提供した。これにより、1個のクラスター爆弾の子爆弾が撤去され、パハーン村での水道建設は 12 月に完了することで、村人たちは衛生的な水を村で確保できるようになった。



パハーン村で撤去された不発弾

●ウガンダ北部における元子ども兵社復帰支援プロジェクト

2013 年 1 月に職業訓練などの社会復帰訓練を終えて、自らの力で収入を得るようになった元子ども兵 20 名(第 6 期生)が、収入を安定していけるようにモニタリング活動を行った。その中で、適宜、必要に応じて収入向上に必要な資機材の追加支援や助言を行った。現在、全員が安定した生活を送ることができるようになっている。また、ほとんどが近隣住民との相互扶助(助け合い)の活動にも参加し、地域での関係性を改善しており、2014 年 7 月～8 月を目処に社会復帰支援を完了する予定である。

今年度(2013 年 7 月)に新規に受け入れた第 7 期生 19 名に対しては、下記の活動を行った。

■BHN(人間としての基本的なニーズを満たす)支援活動

生活を安定させるために訓練期間中、受益者とその家族の状況に応じて毎月の食費と医療費をクーポンチケットで配布した。そのクーポン券は受益者各自の近くの食料品店、診療所でのみ使えるようテラ・ルネッサンスと契約し、村の診療所で治療が困難な場合は、ラチャー病院(北部地域最大の病院)などに搬送し、治療や診療を支援した。また、受益者の家族の状況に応じて、家賃や生活必需品の支給などもあわせて行った。なお訓練期間中は毎日給食を施設内で調理し提供した。

■能力向上支援活動

受益者が収入向上活動を始めるのに必要な職業技術、識字、計算などの能力を向上するための基礎教育などを行った。職業訓練では、洋裁、手工芸、服飾デザイン、木工大工の 4 科目を開講し、基礎教育の授業で識字、算数、英語の授業を行った。



【写真】能力向上支援活動の様子

■心理社会支援活動

各受益者個別に悩みやトラウマやその程度も様々であることから、個別カウンセリングとグループでのクラス(ルーツ&シューツ活動:音楽や伝統ダンス、自作ドラマの創作)などを通じた心理社会サポートを行った。同時に、アチョリ民族の伝統的な和解メカニズムやことわざをもとにした平和教育も行った。また、毎週土曜日に、元少女兵の子ども(6歳~14歳)と、近隣住民の子どもに対しても伝統ダンスや歌、ドラマの授業を開講した。



【写真】心理社会支援活動の様子

■収入向上支援活動

小規模ビジネスのクラスを開講し、貯蓄の重要性、ビジネスの基礎的な知識など、マイクロクレジットを使って収入向上活動をしていくために必要な訓練を行った。その後、フルタイムの訓練修了後に、木工大工の用具など収入向上活動に必要な備品や機材をマイクロクレジット(小規模融資)とともに供与し、受益者の収入向上を促進した。また、定期的に個別、グループ別の指導を行ってきた。



【写真】収入向上支援活動を受けて、洋裁のビジネスを開始して収入を得るようになった受益者

●不法小型武器問題の啓発活動

ウガンダ国内で不法小型武器問題の啓発活動に取り組む NGO のネットワーク組織である UANSA(ウガンダ小型武器行動ネットワーク)との定期的な情報交換を行った。また、同地域の市民社会のネットワークを強化すること及び、一般市民への小型武器問題の啓発が必要との観点から、UANSA の開催するセミナー、ワークショップ、啓発活動へ資金提供を行った。

国際協力事業:コンゴ事業	2013 年度事業決算	5,116,541 円
--------------	-------------	-------------

●コンゴ東部地域における元子ども兵及び紛争被害者支援プロジェクト

事業実施地域の南キブ州、カレヘ行政区のカロンゲ区域は、肥沃な土地に恵まれていながら、長年の紛争の影響で住民たちは十分な食料を確保できず、子どもたちの栄養失調は深刻な状況にある。また、断続的に武装グループ(FDLR)の襲撃と、それに反発する地元住民らが組織した武装グループ(ライア・ムトンボキ)の衝突が発生している。加えて、ライア・ムトンボキは、他の地元住民にも武装グループに入るよう呼びかけ、特に子どもたちが徴兵の対象になっている。

これらの状況を鑑みて、同事業では、対象地域 12 カ村においてカウンセリングや職業訓練などを実施し、最終的に受益者がコミュニティーの住民とともに自立していけるよう今年度は下記の活動を行った。

■自給食料を確保するための活動 —食料の安全保障支援—

同活動では、対象地域の 12 カ村に相互扶助(助け合い)グループを組織し、農業指導、養殖の指導、一時的な食糧や種子の配布を行うとともに、グループのメンバー同士が協力して自給食料を安定的に確保することをめざしている。昨年は、治安悪化により4カ村のグループが避難を強いられたが、今年(2013 年)は、比較的、治安は落ち着いており、各村のグループはカッサバなど自給に必要な農作物の生産や、魚の養殖などを協力して行うことができた。

今年は、3つの村のグループが一時的に避難を強いられた。ミヒンガ村のグループのメンバーが、ルシェニ村に一時的に避難し、ルシェニ村のメンバーが避難民を受け入れて、自宅に避難させ、そこで食糧確保ができるように調整した。また、ブシャイ村とマルンデウ村の住民も一時的な避難を強いられ、チョロベラ村とチャミヌヌ村で避難できるように調整を行った。このように一時的な避難を強いられたグループがあったが、グループ間の相互扶助と当会からの一時的な食料援助によって、全員が武装グループの襲撃にあうことも、食料難に陥ることもなく、安全に生活することができた。各村での農業の生産活動は、気候変動の影響も受けず、おおむね順調に栽培、収穫することができた。余剰作物を販売して現金化できたグループは4カ村であった。

また、各グループで昨年までに整備したため池で養殖した魚が成長し、それにより幾つかのグループでは大きな収入を得ることができた。チギリ村のグループは養殖した魚を引き上げた後、一人当たり5匹は食料用に分配し、貴重なタンパク源となり、残りの魚を市場でメンバーが協力して販売することができた。その収益で他の食料品を購入し、各メンバーの家族に分け与え、さらに残額をグループで山羊2匹を購入し、これらは家畜として飼育し、緊急時の食用の肉として確保することができた。また、他のグループでも基本的に、収穫した魚の一部は食用に分け合い、残りを現金化して

他に必要な食料品や生活用品をみんなで話し合い購入するという仕組みで養殖の活動を行っている。

チョロベラ村では、グループのメンバーで子どもを出産して、そのケアに使うお金がなかった女性がいたので、グループ内で話し合い、養殖による収益を彼女と子どもの医療費に使用した。

これらの活動で、治安が悪化してもそれに対して、各村のグループがお互いに助け合いながら、安定して自給食料が確保できるようになった。今後の課題として、収益を貯蓄して、それを各個人が怪我や病気、出産などお金が必要な時に、回せるような保険制度の仕組みを作っていく必要があると考えている。また、共同の農地を設置し、一時的な避難を強いられた場合に、一部の住民に負荷がかからないように、食料を補填できるような仕組みを作る必要がある。

■収入源を確保するための活動 —収入向上支援—

同地域では、都市部に出稼ぎに行く以外に現金収入を得る方法は限られており、低賃金で鉱物資源の採掘や日雇い労働に従事する以外は、ほとんど雇用の機会がない。また、こうした収入源は不安定であるだけでなく、不公平な条件で、外部のビジネスマンや富裕層(または武装勢力)に搾取されることにもつながっている。同活動では、受益者が安定した収入源を確保するために、衣服や家具など地元住民にとってもニーズの高い製品やフェアトレード商品を生産するための技術訓練、その後のフォローアップ(実際の収入向上のためのサポート)を行った。

昨年、洋裁の職業訓練を行った6名の女性に、その技術を使って収入を向上できるようにフォローアップし、うち、3人は自宅で洋裁の仕事を請け負って、衣服の修理や製作により収入を得ることができるようになった。ただ、それだけで十分な生活費を賄う収入を得ることはできておらず、農業もあわせて行っている状況である。残りの3人は小規模ビジネス(食料品や日用品の小売)と洋裁の仕事と並行しながら収入を得ており、衣食住を満たすだけの収入は得ることができている。

また、昨年、洋裁店の開店支援をした5つのグループでのフォローアップのための支援を続けた。1グループ5~10名で、共同でお店を運営しているが、ルシェニ村で洋裁店を始めた6人は、常にお客さんが来ている状況で、全員がとても忙しく働くことができている。クリスマスの時期には、一人当たり100ドル前後の収入を得ることができた。この額はコンゴ東部では破格の現金収入で、この時期は、全員、店に泊まり込みで仕事に打ち込んでいたが、毎月これほど高額な収入を得ているわけではなく、平均すると毎月30~50ドル程度の収入は得ることができるようになっている。チギリ村では、今年(2013年)に入って、治安が良くなり、落ち着いてビジネスを始めることができるようになってきている。週に2回、火曜日と木曜日だけ洋裁店を運営して、残りの日は農業をして、洋裁では月20ドル程度の収入を得ている。マルンデゥ村の近隣(チャミヌヌ)に設置したグループは、昨年からかなり長期にわたって避難を余儀なくされており、今年も一時的な避難を強いられ、その影響で、全員が毎日、洋裁店で仕事をできる状況ではない。それでも現在は治安が落ちつき、最低一人が店に常駐して若干だが収入を得られるようにはなっている。また、ムレ村はタンタル鉱石の産地でもあり、多くが低賃金で採掘作業を行っていたが、昨年从这里に洋裁店を開店したメンバーは全員が、1日数ドル程度(月に30~40ドル)の収入を得ることができるようになっている。ただ、鉱山の開発などで治安もそれほど安定しておらず、現在はメンバーの5人はミシンを自宅に移動して、時々、お店で注文を受けながら仕事をしている状況にある。

また、紛争被害を受けた女性 26 名に対して、職業訓練を開始した。訓練期間は 9 か月間でこれまでより少し長めに設定し、授業の合間にカウンセリングなどを行いながら、ミシンの扱い方から、洋服、アフリカンドレスの作り方などを指導した。



【写真：紛争被害を受けた女性に対する職業訓練の様子。対象者の多くは親を失った孤児、または、性的暴力により子どもを身ごもり、その相手に見捨てられた 15～24 歳の少女と女性】

■心理社会的な安定を促す活動 —心理社会支援—

子ども時代に戦闘に加担させられた元子ども兵や、性的暴力を受けた女性たちは、心に傷を負っているだけでなく、コミュニティから偏見を受けたり、疎外されたりするケースがある。昨年度に引き続き、グローブハウスⅢに常駐するスタッフが、希望者に対して個別カウンセリングを行った。また、対象地域の村々を訪問した際に、コミュニティ内で差別や偏見など深刻な問題が確認された場合は、村長などコミュニティリーダーと協力してその解決に努めた。加えて、今年度は、各村の自給食料を確保する活動のグループのメンバーの一人が調整員となり、村々で何か問題があったり、性的な暴力を受けた住民がいた場合、その調整員を通してテラ・ルネッサンスのスタッフが相談にのれる体制を整えた。

※「健康を維持するための活動」及び「子どもの権利を守るための活動」について

今年度は、昨年度同様、他の援助機関や地元の病院が一定のサービスを行っており、「健康を維持するための活動」は、活動の重複を避け、同地域での支援活動全体を円滑に行うために、当会からの直接実施は行わず、カロンゲ区域の現地状況を他機関に情報提供することでこの活動に協力した。

また、「子どもの権利を守るための活動」として、教育の機会を奪われた子どもたち(孤児)に対する教育支援は、治安の悪化と資金不足のため中断している。子どもの教育も非常に重要な活動ではあるが、現地事情を鑑みて、自給食料を確保したり、収入源を確保するための活動を優先して行っている。

国際協力事業:ブルンジ事業	2013 年度事業決算	5,382,417 円
---------------	-------------	-------------

●ブルンジにおける元子ども兵および紛争被害者自立支援センター住民参加型建設プロジェクト

ブルンジ共和国、ムランビヤ県、キガンダ郡に「元子ども兵および紛争被害者自立支援センター」を住民参加型で建設する事業で、現在、屋根工事までが完了している。建設後、同施設は、元子ども兵や紛争被害者の自立・社会復帰を支援するための職業訓練や基礎教育、収入向上支援活動の活動拠点として活用することとしている。また、事業管理はパートナー団体(CEDAC)とともに実施し、建設には紛争被害者を含む現地住民が参加し、その作業を通して住民間の和解と信頼構築を促進してきた。

施設の建設用地は、同施設が地元の人々の自立のために活用されるという趣旨を理解した現地政府から無償で提供され、2013年10月から建設を開始した。建設にあたって、建設資材はすべて現地調達とし、当会の職員及びパートナー団体の代表の2名を中心に事業管理を行っている。建設の施工管理は地元の技術者が務め、建設作業員は元子ども兵を含む紛争被害者や最貧困層の住民36名が関わっている。大型の機材は使わずに基本的にローテクの手作業で行い、2014年3月現在、施設の骨格が完成し、現在、外装と内装の工事が進められている。



【写真：施設建設の様子】

●ブルン

ジ共和国洪水被害に対する緊急支援の実施

2014年2月9日、ブルンジ共和国で大規模な洪水災害(被災者約2万人、家屋倒壊3800戸、避難者1万2,000人)が発生し、テラ・ルネッサンスでは、首都ブジュンブラ北部のカメンゲ、キナマ、ブテレレの3つ行政区にて、被害状況の調査を実施した。

同地域では601戸の家屋が破壊され、そのうち308戸は全壊し、1010世帯、5555名の方が被災されている。3つの行政区の中でも多くの家屋に被害が出ているキナマ地区には2つの避難民キャンプが設置され、乳幼児を含む多数の人々が劣悪な環境下で避難生活を強いられている。そのうちの1つのキャンプはキナマ地区中心部のサッカー場に設置され、67のテントに少なくとも1000名以上が避難しているが、安全な水や食料の不足に加え、衛生状況を改善するための物資や調理器具、燃料(炭)など生活物資が不足している状況にあった。

このような状況を鑑みて、テラ・ルネッサンスでは、2014年3月、同キャンプに設置された67棟のテントで暮らす避難民、約1000名を対象に、石鹼4824個と各テントに洗剤パックを供与した。



【キナマ地区に設置された避難民キャンプ】



【避難民キャンプでの物資配布の様子】

日本	2013 年度事業決算	56,361,881 円
----	-------------	--------------

1. 啓発事業

本会の活動や、取り組んでいる課題(地雷、小型武器、子ども兵)についての啓発活動を、講演やイベントなどの実施を通じて積極的に取り組んだ。

●講演

本会職員による講演を行政、企業・団体、教育機関等で計 128 回実施した。主なテーマは、「地雷畑で見た夢(地雷)」、「ぼくは 13 歳 職業、兵士。(子ども兵)」、「こうして僕は世界を変えるために一歩を踏み出した(社会起業)」、「東日本大震災復興支援活動(ともつな基金)について」。

●主催イベント

テラ・カフェ(開催場所:京都)は、毎月開催し、東京での定期報告会としてテラ・スタイル(開催場所:東京)を 2013 年 8 月を除き、開催した。

2013/4/10(水) テラ・スタイル東京～創設者 鬼丸昌也が語る”テラ・ルネッサンスの現在、過去、未来～

2013/4/10(水) 第 23 回テラ・カフェ コンゴの過去と現在～「忘れられた戦争」と呼ばれないためには～

2013/4/19(金)～21(日) 鬼丸昌也と行く「大槌刺し子」と「復興」への槌(つち)音に触れる旅

2013/5/8(水) テラ・スタイル東京

2013/5/8(水) 第 24 回テラ・カフェ カンボジアスタディツアー報告会

2013/6/12(水) テラ・スタイル ウガンダ事務所職員・トシャ・マギーによる講演

2013/6/12(水) 第 25 回テラ・カフェ ラオスの過去、現在、そして未来～不発弾とともに生きる人々 ラオス・シエンクアン県から～

2013/7/10(水) テラ・スタイル東京

- 2013/7/10(水) 第 26 回テラ・カフェ 「ウガンダ元子ども兵の希望への歩み」～ペーパービーズ作りを通して～
- 2013/8/7(水) 第 27 回テラ・カフェ テラ・ルネッサンスの協働事例～NPO 編「ファーストステップ・ジョブ・グループ」～
- 2013/9/11(水) テラ・スタイル東京
- 2013/9/11(水) 第 28 回テラ・カフェ 私たちが知らなかったウガンダ～ウガンダ視察報告会～
- 2013/10/9(水) テラ・スタイル東京
- 2013/10/9(水) 第 29 回テラ・カフェ テラ・ルネッサンスの資金はどこから？
- 2013/11/13(水) テラ・スタイル東京
- 2013/11/13(水) 第 30 回テラ・カフェ 京都で考える東北～テラ・ルネッサンスの震災復興支援について～
- 2013/12/11(水) テラ・スタイル東京
- 2013/12/11(水) 第 31 回テラ・カフェ テラ・ルネッサンスの広報力～海外ウェブサイトを通して広がる世界～
- 2013/12/23(月) STEP TO THE FUTURE ～ラオスと私がつながる日～
- 2014/1/8(水) テラ・スタイル東京
- 2014/1/8(水) 第 32 回テラ・カフェ こうして私も世界を変えるために一歩を踏み出した～インターンを通して学んだこと～
- 2014/2/12(水) テラ・スタイル東京
- 2014/2/12(水) 第 33 回テラ・カフェ テラ・ルネッサンスらしい支援とその成果～ウガンダ事業 8 年間の歩み～
- 2014/3/12(水) テラ・スタイル東京
- 2014/3/12(水) 第 34 回テラ・カフェ インクやハガキが集まって、『未来をつくる力』になる



STEP TO THE FUTURE ～ラオスと私がつながる日～ 参加者

●各種イベントへの参加

下記イベントに参加し、本会の活動紹介や取り組んでいる課題の啓発などを行った。

- 2013/5/11(土)、12(日) アフリカンフェスタ(外務省)
- 2013/6/1(土) アフリカンフェスティバル in Kyoto(JICA 関西)
- 2013/6/2(日) アフリカ開発会議(TICADV)サイドイベント(児童労働ネットワーク)
- 2013/6/8(土) がんばらないチャリティバドミントン大会
- 2013/7/20(土) 京都流議定書(京都流議定書イベント実行委員会)
- 2013/9/15(日) 国際協カステーション(JICA 関西、(公財)京都府国際センター)
- 2013/10/5(土)、6(日) グローバルフェスタ(国際協力 NGO センターJANIC)
- 2013/10/14(月)、19(土) 清水寺で世界を語る～ともに生きる国際協力～
- 2013/11/3(日) 京都ヒューマンフェスタ(京都府)
- 2013/11/17(日) アジアフェスティバル(関西あおぞらプロジェクト)
- 2013/11/30(土) ドリームプランプレゼンテーション in ウガンダ 大阪報告会
- 2013/12/21(土) ドリームプランプレゼンテーション in ウガンダ 東京報告会
- 2014/2/1(土)、2(日) ワン・ワールド・フェスティバル(ワン・ワールド・フェスティバル実行委員会)
- 2014/2/9(日) Eology×International～えいこん話～vol.3(京都エコロジーセンター)
- 2014/3/13(土) 京町屋でフェアトレード

●スタディツアー

下記のとおり、カンボジアでスタディツアーを企画した。参加者は合計 10 名。

03 月 02 日(日)～03 月 09 日(日) カンボジアスタディツアー10 名



●インターネット

公式ウェブサイト、鬼丸昌也サイト、ともつな基金サイト、大槌復興刺し子プロジェクトオンラインショップ、公式ブログ、カンボジア事務所ブログ、理事長ブログ、職員ブログを運営し、適宜、活動の最新状況を伝えるべく更新作業を行った。メールマガジン「テラ・ルネニュース」を定期的に発行し、

1060名(2014年3月31日現在)の読者に、活動報告、イベント情報などを提供した他、FacebookやTwitterでも告知を行った。

●報道

講演やイベントを開催するごとに、プレスリリースを発行し、取り組みが報道されるように努めた。結果、今年度は28件のメディアに掲載された。

【メディア掲載(重複を除く)】

読売新聞、日本事務機新聞、毎日新聞、高齢者住宅新聞、産経新聞、河北新報、岩手めんこいテレビ、信濃毎日新聞、長崎新聞、福井新聞、The Japan Times、東京新聞、岐阜新聞、朝日新聞、NHK BSプレミアム「きらり!えん旅」、ソトコト、テレビ東京 ワールドビジネスサテライト

●フェロー、インターン、ボランティアの受け入れ

今年度は、20人のインターン、2人のボランティアを育成した。

テラ・ルネッサンス 独自受入インターン(半年～1年以上)		昨年度の継続受入 9人 新規受入 11人 計 20人	
受入目的	①長期的に事業にかかわってもらうことで、当会の事業を担う人材を育成する。 ②当会の事業を通じ、「平和な社会」を自ら作り出せる人材を育成する。		
受入実績	05月～07月	京都産業大学 3回生	啓発事業担当
	継続～01月	龍谷大学 5回生	支援者サービス、イベント担当
	09月～03月	京都大学大学院 2回生	啓発、人材育成事業担当
	継続～03月	神戸大学博士課程前期 2回生	広報事業担当
	継続～03月	関西大学 5回生	回収、啓発事業担当
	11月～3月	立命館宇治高校 3年生	啓発事業等補助業務
	11月～3月	京都市立日吉ヶ丘高校 3年生	啓発事業等補助業務
	継続～継続	京都嵯峨芸術大学 2回生	広報事業担当
	継続～継続	立命館大学大学院博士課程前期 1回生	広報事業担当
	継続～継続	関西学院大学 2回生	回収、人材育成事業担当
	継続～継続	社会人	啓発、海外事業担当
	継続～継続	京都大学 3回生	支援者サービス担当
	継続～継続	神戸大学博士課程前期 1回生	海外事業担当
	06月～継続	関西学院大学 3回生	広報事業担当
	09月～継続	立命館大学 3回生	回収事業担当
	10月～継続	立命館大学 2回生	広報事業担当
	10月～継続	京都府立大学 3回生	支援者サービス、広報事業担当
01月～継続	関西学院大学 2回生	回収事業担当	
02月～継続	立命館大学 1回生	イベント、啓発事業担当	
03月～継続	龍谷大学 2回生	回収事業担当	

▼ボランティア

翻訳のボランティアとして1名、ウェブ等のデザインに関するアドバイザーとして1名を採用し、ともに活動を行った。

2. 東日本大震災における、被災者支援「ともつな基金」事業に関する報告

●大槌復興刺し子プロジェクト

■プロジェクトの事業方針

2011年8月から運営母体となった本プロジェクトで、「東北地方に根ざした伝統技術『刺し子』を活用した事業を展開し、大槌町を含めた岩手・三陸地方での雇用機会の創出を実現し、地域社会の復興、伝統技術の継承や振興に貢献する」という事業方針のもと、活動を行った。

■プロジェクトの活動

被災地である岩手県上閉伊郡大槌町において、主として家族や住居等を失った女性が「刺し子」商品を制作できるように技術講習会を行った。制作された商品を当会が買い取り、インターネット等で販売を行った。毎週開催する「刺し子会」で買い取りを行い、被災された方々がともに作業し、交流する場を提供した。

このように、商品制作代金の支払いを通じて生活再建を促進すること、また被災された方々の相互交流を活性化させ、心のケアを図ることを主な目的として活動を行った。また、大槌町在住の人材を新たに2名、非常勤職員として採用し、地元での雇用を創出した。

■プロジェクトの実績

<2013年4月1日～2014年3月31日>

販売枚数：33,266枚

売上：29,523,964円

刺し子さん(※)の人数：108人

刺し子さん(※)の収入：9,528,196円

※刺し子商品を制作する方



sorakamo シリーズ



刺し子会の様子



商品を仕上げる作り手の女性

●ディズニーランド卒業生×テラ・ルネッサンス主催 ディズニーランドツアー

・実地日:2013年8月4日(日)

・参加者:刺し子さんと刺し子さんのお子さん、お孫さん 計24名

『ディズニーランドであった心温まる物語』(発行:株式会社あさ出版 著:東京ディズニーランド卒業生有志 監修:香取貴信)の印税をご寄付いただき、刺し子さんのお子さん、お孫さんをディズニーランドに招待した。「自分たちを育ててくれたディズニーランドへ、東日本大震災でつらい思いをした子どもたちを招待したい」という香取貴信さんの想いを当会が現地に繋ぎ実現した。



●IT 人材育成支援

■プロジェクトの概要

株式会社デジタルブックプリント(本社:大槌町)では、当時マネジメントの出来る人材が不足していたため、当会職員が出向し、事業立ち上げ期のサポートを担当した。

期間:2012年10月～2013年12月

■プロジェクトの活動

内職とフルタイムスタッフを募集、雇用し、教育、業務管理を担当。

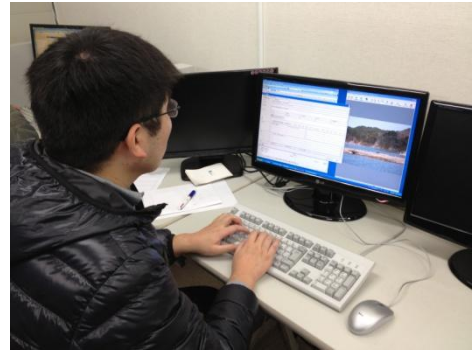
立ち上げ期の事業運営(業務管理、人材募集/採用、人材教育、事務所探し/事務所のセットアップ等)

事業が現地人材で回せるまでの運営。

■プロジェクトの実績

<2014年3月31日時点>

実績:内職 50名 フルタイムスタッフ 25名



勤務中のスタッフ

●イノベーション東北

■プロジェクトの事業方針

Google が中心となり、パートナー企業や団体、地元根ざしたコーディネーター、賛同いただいた個人サポーターの方とともに復興の加速を目指している。

(復興庁「新しい東北」先導モデル採択事業)

■プロジェクトの活動

大槌町のコーディネーターとして、以下の事業者支援を実施。

- 1.ビジネス支援ワークショップの開催
- 2.プロボノマッチングによるビジネス支援

■プロジェクトの実績

<2014年3月31日時点>

参加事業者:32事業者

ビジネス支援ワークショップ/イベント開催 合計7回

マッチング件数 7事業者 15件



2013年5月13日ワークショップの様子

●大槌情報共有会の開催

■プロジェクトの概要

岩手県大槌町では地域の団体の情報共有する場がなく、イベントや活動のダブルブッキングなどが生じていた。対策として、2012年11月から月に2回、大槌町で活動する団体間の情報共有のための会を当会が主催し、現在は大槌町の団体が情報共有をする場として定着。各回5~15名が参加し、情報共有を行っている。

■プロジェクトの活動

- ・月に2回地域の団体が集まる会議を主催
- ・2013年4月~ 団体の連携による子どもの遊びを支援するプロジェクトが発足。定期的にイベントを開催。
- ・2013年12月~ 大槌町内で活動する団体、大学のリストを協働で制作を実施中。

■プロジェクトの実績

<2014年3月31日時点>

参加団体:32(累計)Facebook グループには 154 人が登録。



情報共有会で話し合う参加者

3. 組織運営に関する報告

●会員現況(2014年3月末日現在)

正会員 122 名、個人賛助会員 278 名、ジュニア賛助会員 12 名、団体賛助会員 60 団体、ファンクラブ会員 601 名 【合計延べ 1073 名・団体】

●協力団体との連携

今年度は 9 団体に加盟し、さまざまな協働事業、キャンペーンなどを実施し、自団体の活動を展開する上で有益な情報を得ることができた。

加盟団体:特定非営利活動法人関西NGO協議会、地雷廃絶日本キャンペーン、日本小型武器行動ネットワーク、児童労働ネットワーク、ウガンダ小型武器行動ネットワーク、国際小型武器行動ネットワーク、世界子ども兵禁止連盟、京都NGO協議会、グルNGOフォーラム

協働団体:ウガンダ小型武器行動ネットワーク、MAG、GUSCO、CEDAC

体制

●役員(理事、監事)

2013 年度の役員は、次のとおり。(2014年3月31日現在)

理事 小川真吾(理事長)、中井隆栄、岡田則子、鬼丸昌也、新居真衣

監事 鯉田勝紀

●組織・運営体制 (2014年3月31日現在)

京都事務局 有給専従職員 4 名、インターン 13 名で運営を行った。

岩手事務所 有給専従 3 名、有給非専従 3 名

ウガンダ事務所 ローカルスタッフ 13 名で運営を行った。

カンボジア事務所 日本人有給職員1名、ローカルスタッフ 7 名で運営を行った。

コンゴ事務所 ローカルスタッフ 6 名 で運営を行った。

●受賞(個人)

第 1 回アユス NGO 新人賞(特定非営利活動法人アユス仏教国際協力ネットワーク)

受賞者:栗田佳典